

勢多だより

SETA DAYORI

No. 106
2017年3月



第42回「若鮎祭」を終えて

第68回 西日本医科学学生総合体育大会

新任教員紹介

海外自主研修

ヨット部 追悼慰霊式

平成28年度

若鮎祭特集

夏の課外活動

国際交流



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

CONTENTS

【メインテーマ】平成28年度若鮎祭特集 夏の課外活動 国際交流

トピックス

- 01 ～猪突猛進～第42回「若鮎祭」を終えて 実行委員長 医学科第4学年 竹島 潤
- 03 「若鮎祭」実行委員の感想
- 06 平成28年度 学生表彰
- 08 第68回 西日本医科学学生総合体育大会
- 09 マレーシア国民大学からの研修生受入れ
- 10 留学生等バス旅行

新任教員紹介

- | | |
|-------------------|-------------|
| 12 基礎看護学講座(形態・生理) | 教授 相 見 良 成 |
| 13 内科学講座(神経内科) | 教授 漆 谷 真 |
| 14 内科学講座(腎臓内科) | 准教授 荒 木 信 一 |
| 15 整形外科講座 | 准教授 川 崎 拓 |
| 16 解剖学講座(神経形態学部門) | 准教授 金 田 勇 人 |
| 17 薬理学講座 | 教授 西 英一郎 |
| 18 生命科学講座(物理学) | 准教授 成 瀬 延 康 |

キャンパスライフ

- 19 リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016 滋賀医科大学
- 20 海外自主研修
 - ハーバード大学での自主研修を終えて 医学科第4学年 有 田 和 旦
 - 世界を広げて違いを知る 医学科第4学年 鬼 頭 雄 也
 - わたしの韓国訪問記 医学科第4学年 松 田 安 希
- 26 平成28年度 滋賀医科大学奨学金奨学生の決定
- 28 ヨット部による追悼慰霊式
 - 2016年 嶋岡さん追悼慰霊式 医学科第3学年 ヨット部主将 大 野 純 生

図書館からのお知らせ

- 29 2017年3月 リニューアル!
- 30 「多読でビワイチ」を開催しました!

インフォメーション

- 32 平成28年度 第1回学位授与式
- 33 平成28年度 医学科第2年次後期学士編入入学式・秋季大学院入学式
- 36 第42回 解剖体慰霊式・平成28年度 研究動物慰霊式
- 37 JCHO 滋賀病院における臨床実習を終えて JCHO 滋賀病院 院長 来 見 良 誠
- 39 在宅看護力育成事業「訪問看護師コース(選択制)」の紹介
- 40 第42回滋賀医科大学若鮎祭収支決算報告

トピックス

Topics

10ヶ月間の若鮎祭を終えて

第42回若鮎祭実行委員会委員長
医学科第4学年
竹島 潤



「猪突猛進」と名付けた我々の第42回若鮎祭が終了しました。しかしまだ私自身終わったような気がしておらず、未だ学祭準備にサークル連絡室2に向かいそうになります。およそ10ヶ月間、委員長として学祭に関わり思うことは、1つのことであったとしても、最後まで走り抜いて完遂するというのがいかに難しいかということです。学祭の一週間前ごろから徐々に不安が募り、無事に成功できるのだろうか、何か忘れていることがあるのではないか、何か問題が起こるのではないかと気が気ではありませんでした。そのためフィナーレには達成感と共に同等の安堵の思いがありました。当日僕は学祭を満喫するほどの余裕はありませんでしたが、参加してくださった皆さんの心に少しでも残るものになっていれば（特に初めて学祭に参加する一年生達）嬉しいです。

私がなぜ実行委員長になったかということ、高校時代も学祭の委員会に参加していたのですが、当時は委員長のワンマンでほとんど仕事がなく悔しい思いをしたということ、また私が一年生のときの若鮎祭がとても楽しく魅力的で自分も何らかの形で学祭に関わりたと思ったからです。その当時は学祭運営のシステムも全然分かっていなかったもので、実行委員会に入りたいな、程度にしか思っていませんでした。その後三年生になり当時の四年生の執行部の方から学祭のお手伝いに誘っていただきました。ミーティングに参加させて

頂いたり、委員会の方々の話を聞いているうちに自分もやはり学祭に関わりたという再認識し、またせっかく関わるのなら、そして皆が認めてくれるなら、高校でのリベンジも含め委員長を務めたいと思いました。

そんな私ですが、中高と部活の部長をしたこともなければ大学でもキャプテンはしておらず、うまく委員会を取り仕切れるのかという不安がありました。案の定、最初の頃の委員会は正直締まりの無いものだったでしょうし、さらにはリーダーシップとは何かをはき違えて只々私が無心で仕事をこなす、という時期もありました。そんな時に的確にアドバイスをくれた執行部の皆、そしてそんな私と一緒に仕事をしてくれた実





行委員会の局長、副局長の皆には感謝してもしきれません。

正直なところ西医体や自主研修などで多忙を極めたときは心が折れそうになったこともあり、逃げ出したくなることもありました。「良い」委員長だったか、と聞かれればあまり自信はありませんが、委員長をして良かったと今ははっきりと言えます。集団で何かを行うとなれば、当然考え方の異なる人や熱意に差がある人が現れます。そのような多様な人がいる集団をどうやって結び付けて一つの目標へ向かって導いていくのか、というめったに与えられない初めての課題に挑戦することが出来たのは、とても良い経験となりました。10ヶ月前の自分より少しでも成長出来ていれば、と思います。

最後になりましたが、塩田学長、山田副学長、松末



病院長をはじめとする大学、病院の教職員の皆様、永田学生生活支援部門長をはじめとする学生生活支援部門の先生方、湖医会をはじめとするOB,OGの皆様、谷口さんをはじめとする学生課の皆様、後援会の父母の方々、協賛して下さった企業の皆様、若鮎祭に参加して下さった方々、私に何度もアドバイスを下さった前回の谷村委員長、そしてなにより医学科4年生、看護学科2年生の学祭に携わった皆さん本当にありがとうございました。

第42回若鮎祭は皆様のご理解、ご協力のおかげで無事成功を収めることができました。これからも続く若鮎祭がますます発展していきますようお願いながら私の文章を終えたいと思います。本当にありがとうございました。



「若鮎祭」実行委員の感想

副委員長 医学科第4学年 石田 万菜

若鮎祭を終えて

今年も若鮎祭が無事終わり、冬が近づいてきました。今回、私にとっては4回目の若鮎祭で、はじめて運営側の副実行委員長という形で関わらせて頂き、本当に貴重な経験をする事ができました。若鮎祭の約半年前から少しずつ準備を進めてきましたが、あっという間の6か月でした。副実行委員長としての仕事をする中で、たくさんの人たちと話をしたり一緒に仕事をしたりすることができてよかったです。本番の4日間は大きな問題が起ることなく私たちも楽しく過ごすことができました。来年実行委員をする方々にも、もっともっと若鮎祭を盛り上げていけるように頑張りたいです。最後に、若鮎祭の運営に協力してくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

副委員長 医学科第4学年 佐々木 周

若鮎祭を終えて

皆様、第42回若鮎祭にご参加いただき誠にありがとうございました。

私は、実行委員長の竹島君に連れられて、若鮎祭執行部として副実行委員長を務めさせていただきました。素晴らしい機会を与えてくれた彼にまず感謝したいです。

今年度初めて、TULLY'S COFFEE 滋賀医大病院店様のご協力の下、来場者の皆さますべてに「来場者プレゼント福引」を企画させていただきました。タリーズ様も期間中はご盛況だったようで、良い関係を築くことができました。新規の企画だったので準備段階ではいろいろな問題もあったのですが、執行部の仲間にも助けられてなんとか成功させることができました。

高齢化が進む中、持続可能な医療において他職種間での相互の協力というのは不可欠だと思います。そういったことの片鱗を、若鮎祭を通して体感でき、素晴らしい経験でした。ありがとうございました。



副委員長 医学科第4学年 水田 結花

若鮎祭を終えて

若鮎祭を終えて、ステージの前で楽しむ人の様子や受付テントから見た来場者の方の様子を思い出すと、今年も若鮎祭が無事に終わることができてよかった、楽しんでもらえてよかったと安堵します。副実行委員長を務めさせて頂いてよかったと思ったのは、よりよい若鮎祭にしようと連日準備に取り組む各局実行委員とともに運営に関われたこと、一緒に達成感を味わうことができたことです。準備期間を含めて大変密度の濃い時間で、私自身もこれまで以上に若鮎祭を楽しませて頂きました。最後になりましたが、若鮎祭運営のためにご協力いただいた全ての方々に心から感謝申し上げます。

副委員長 看護学科第2学年 有光 桜子

若鮎祭が終わって

平成28年度若鮎祭副実行委員長を務めさせて頂いた有光です。はじめて裏方として学祭に参加させて頂き、先輩方や同回生の友人らの活躍を間近で見て、若鮎祭は医学科4回生と看護学科2回生全員が力を合わせてはじめて開催できるものなのだと改めて実感しました。若鮎祭の当日、私は受付の仕事をしていたのですが、来場者の方々も学内の方々も学祭を楽しんでいる様子でしたし、今年は去年よりも来場者数が増え、大盛況だったと思います。実行委員長の竹島さんが、最初に「とにかく楽しい学祭にしたい」とおっしゃっていましたが、これ以上はないくらい楽しい学祭だったのではないかなと思います。来年の若鮎祭も今年以上に素晴らしいものになることを願っています。



副委員長 看護学科第2学年 岩崎 明日香

若鮎祭を終えて

若鮎祭副実行委員長をさせていただきました看護学科2回生岩崎明日香です。今回の若鮎祭の入場者数は昨年を大きく上回り、大盛況で幕を閉じることができました。学祭中は受付にいる機会が多く、講演会に来る方や移動動物園に来る方、企画に興味を持って来てくださった方など来場者の方ひとりひとりの姿を直に見ることができ、更には笑顔で帰っていかれる姿を見送る事ができ、とても嬉しく思います。この学祭で同回生や先輩方との絆を築くことができました。学祭を執行部の一員として成し遂げられた事は私にとってとてもいい経験になったと思います。

このように若鮎祭が無事に終わられたのは多くの方の協力があったことでした。その方々に心から感謝しています。本当にありがとうございます。来年からも若鮎祭が学生と学生や、学生と学校、学生と地域を繋ぐものであり続ける事を祈っています。

会計 医学科第4学年 小谷野 賢

これからが若鮎祭

昨年12月、「会計やってみない?」と言われ、軽い気持ちで「おう!」と答えてからもう少しで1年が経とうとしています。軽い気持ちで引き受けたものの、予算の分配から業者の方との値段交渉までお金に関わることは全て自分の仕事であり、若鮎祭前は絶え間なく動いていました。また、慣れないことだらけで多くの方々に迷惑をかけてしまったこともあります。ただ、その度に手を差し伸べてくれた周囲の仲間たちへの感謝は忘れることはありません。当日は、無事に若鮎祭を開催できるのか不安しかありませんでした。11月現在、会計の仕事は未だに残っており、むしろこれからが繁忙期になると思われます。学内で私が走り回っている様子を見たら、「まだ仕事してるんだな、あいつ。」とでも思って頂けると幸いです。



ステージ局長 医学科第4学年 赤田 将

若鮎祭を終えて

この度の若鮎祭で、私はステージ局長を拝命しました。ステージはいわば学園祭の顔であるので、その責任の重さに、私は一抹の恐ろしさを感じると同時に、武者震いをする思いでした。私たちは誰もがステージに立っているのだと、シェイクスピアは言いました。とすれば、ステージは多くの困難と同時に感動のあふれるものでなければならないと直感しました。そして、そこに立つプレーヤーをいかに光り輝かせるか、いかに観客を魅了するかが、ステージ局の使命であると確信しました。当日の朝は小雨が散る空模様でしたが、実行委員長による開会宣言の直後に、雨はやみ、雲間から差し込んできた一筋の光を、天からのスポットライトであると感じたのは私だけでしょうか。

“Together maKe up Carnival,” and together make up stage.

ステージを作り上げたすべてのプレーヤーと裏方に心からの感謝を。

ステージ副局長 看護学科第2学年 川口 真澄

若鮎祭を終えて

私は今回、ステージ局の副局長として若鮎祭の運営に関わらせていただきました。去年は部活の屋台の運営や、サークルのダンスなどで若鮎祭に関わりましたが、今回実行委員会として関わらせて頂くことで、多くの人が長い時間をかけて準備を行うことで若鮎祭が成り立っているのだと知ることができました。

ステージ局の副局長として、今回若鮎祭を作って行く立場として関わったことは大きな経験になりました。ステージ局の皆様、ありがとうございました。

企画局長 医学科第4学年 竹内 佳代

若鮎祭を終えて

企画局では、地域の方々や学生など幅広い来場者をターゲットとした多くの企画を担当しています。アカデミックなものから小さなお子さん向けのものまで様々な企画を準備するために企画局の全員にアイデアを出してもらい、例年行っている人気企画に加えて新しい企画にもチャレンジしました。この場を借りて、ご協力いただいた外部の企業や団体の方々、学内の先生方と実行委員のみなさんに感謝いたします。みんなが試行錯誤して頑張ってくれた企画が、参加者の方に楽しんでいただけている様子を見て安堵感と充実感を覚えました。企画局は自由度の高いところだと思うので、来年もアイデアがあれば試して行ってほしいと思います。

企画局副局長 看護学科第2学年 松下 実来

若鮎祭を振り返って

私は今回の学園祭には企画局の副局長と会計として関わらせていただきました。企画局は様々なイベントを企画、実施し来場者の方に楽しんでいただくため早くから準備を行ってきました。私はいろいろな企画のサポートに入らせていただきました。その中で若鮎祭は多くの方の努力と協力で成り立っているものであると知りました。それに関わることができて、大変なこともあったけど楽しく嬉しいものでした。最後になりましたが、局長さん、局員の皆さん本当にありがとうございました。



広告局長 医学科第4学年 中川 龍星

若鮎祭を終えて

今年も多くの広告主様のご協力のもとに学園祭を行うことができました。この場を借りて感謝申し上げます。局長の依頼を受けた時は重責に耐えられるか非常に不安でしたが、班長をはじめ局員の協力のもとに終えることができました。広告主様は広告のためにパンフレットに掲載するのではなく、学園祭のために寄付していただいているということを意識して進めてきました。訪問をするのとどの広告主様も学園祭の成功を願ってくださり、勉強も頑張るようにお声をかけていただきました。学園祭を開催できるのは地域の方々の協力のおかげだと強く感じました。ご期待に応えられるようこれからも日々勉学に励みたいと思っています。

広告副局長 看護学科第2学年 川崙 愛理

若鮎祭を終えて

私は広告局の副局長という役割ではありましたが、局長や先輩方にただついて行くばかりでした。広告局の仕事としては、電話対応をし広告を作ることが主ですが、得意でない電話対応も、先輩方がわかりやすく教えて下さり、多くを学びました。また、私は広告局内において学祭パーカーの集計係として務めさせていただきましたが、初めてのことも多く、ここでもやはり先輩方に助けていただくことが度々ありました。力不足の副局長ではありましたが、若鮎祭の運営側に携われたことは良い経験となりました。尽力して下さった学祭委員長はじめ各局長・副局長、学生課職員の皆さん、寄付に協力して下さった方々、地域の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

広報局長 医学科第4学年 松田 安希

若鮎祭を終えて

第42回若鮎祭を無事に終えることができました。今年は去年以上の来場者があり、喜ばしく思うと同時に安堵の気持ちでいっぱいです。副局長や班長をはじめ、局員のみなさま、執行部のみなさまや他局の局長さん、その他関わったすべてのみなさま、本当にありがとうございました。まわりのみなさまに支えられて、局長をやることができました。振り返ればあっという間の8ヶ月で、すべてが良い思い出です。

今年は大津市の企画で、7大学合同の学祭PR企画を行いました。他大学の学生さんと話し合ったのは、夏の良い思い出です。これからも大学同士の横のつながりが増えれば、と思います。

広報副局長 看護学科第2学年 坂田 彩摘

若鮎祭を終えて

素晴らしい方々に恵まれたおかげで、無事に若鮎祭を終了することが出来ました。広報の仕事に協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

若鮎祭の準備期間は長いようであつという間でした。いつもは実行委員などという表舞台のものとは真逆の立ち位置にいる人間だったので、今回の若鮎祭で広報局副局長という役職を与えていただいたことで、良い経験することが出来ました。反省点や課題も多かったのですが、今回学んだことをこれから先に生かせるように頑張りたいです。

総務局長 医学科第4学年 八田 真梨子

若鮎祭を終えて

今年の1月に実行委員会が立ち上がってから、約10ヵ月、総務局長として若鮎祭の運営に携わらせていただきました。3年前までは会社で働いていた身なので、その頃から考えると、稀有な経験をさせていただきました。会社とは違い、大学内で仕事をすることは、正直大変な面はありました。しかし若鮎祭後に、模擬店の店長さん達の満足な声が聴けたときは、大変だった分、本当に達成感がありました。

学祭では、同回生の普段見られない顔が見られて、改めて彼らの才能や能力のすばらしさを感じました。また、一緒に働いてくれた班長さん達が優秀だったからこそ、自分はこの仕事を全うできたのだと思います。短い期間だったけれど、彼らと一緒に仕事できた日々は本当に濃く、充実したものでした。ありがとうございました。

平成28年度 学生表彰

10月29日（土）、第42回若鮎祭開会式終了後に中庭水上特設ステージで、滋賀医科大学学生表彰の表彰式が挙行されました。

今回表彰を受けたのは、平成27年9月から平成28年8月までの間に優れた実績、評価を得た5つの個人及び団体です。

受賞者には塩田学長から表彰状と副賞の目録が授与され、受賞者への祝辞が述べられました。

受賞者	受賞理由
端艇部	第68回西日本医科学生総合体育大会ボート部門団体総合優勝
陸上競技部 医学科 第3学年 大沼 玲佳	第68回西日本医科学生総合体育大会陸上競技部門女子ハンマー投げにおいて優勝
卓球部 医学科 第1学年 山崎 智加	第68回西日本医科学生総合体育大会卓球部門女子シングルスにおいて優勝
医学科 第4学年 高石 亮太	「正常カニクイザルの主要臓器における炎症性および抑制性マクロファージの分布」の演題で第105回日本病理学会総会にて発表を行い「学部学生ポスター優秀賞」を受賞
国際保健・地域医療 研究会 TukTuk	滋賀県からの委託を受け、パンフレット「滋賀県での在宅医療の始め方」を作成し、その内容が県内関係者及び「在宅医学会」「在宅ケアを支える診療所市民ネットワーク全国大会」で高い評価を得た。

大学院博士課程ポスター発表会で「優秀ポスター賞」受賞

優秀ポスター賞	大学院（博士課程）第3学年 村田 幸一郎
---------	----------------------



学歌斉唱



学長祝辞



学生表彰：端艇部

第68回 西日本医科学生総合体育大会

今年度の西日本医科学生総合体育大会（通称：西医体）は徳島大学を主幹校として8月に開催されました。多くの種目で8位以内の好成績をおさめ、総合においては全44校中34位となりました。来年度のさらなる活躍を期待したいと思います。

クラブ名	種目	成績（ベスト8以上）
バドミントン部	女子団体	3位
	シングルス	3位 石原 晶子
柔道部	男子団体	ベスト8 進出
卓球部	女子シングルス	1位 山崎 智加
	女子ダブルス	3位 力武 里菜 山崎 智加
端艇部	団体	1位
	舵手付きフォア	1位
	シングルスカル	4位
陸上競技部	女子ハンマー投げ	1位 大沼 玲佳
ヨット部	団体	7位
水泳部	男子100m 自由形	5位 吉田 耕輔
	男子200m 自由形	8位 古田 諒
	男子400m 自由形	2位 古田 諒
	男子100m バタフライ	4位 吉田 耕輔
	男子100m バタフライ	7位 吉武 倫太郎
	男子800m リレー	8位 吉田・吉武・黒内・古田
	女子50m 平泳ぎ	5位 吉本 舞
	女子200m 個人メドレー	6位 加藤 温奈
	女子200m 個人メドレー	7位 吉本 舞
	女子400m リレー	8位 江川・吉本・松木・加藤
ハンドボール部	団体	2位

マレーシア国民大学からの研修生受け入れ

SUMS received 3 students from National University of Malaysia

11月22日から12月15日までの間、マレーシア国民大学看護学科から学生3名を研修生として受け入れました。この受け入れは、滋賀医科大学とマレーシア国民大学との国際交流協定に基づき、両校の看護学科間の交換研修として実現したもので、8月には、本学看護学科の学生3名がマレーシア国民大学で研修を行っています。

マレーシア国民大学の学生たちは、看護学科で実習

を行い、附属病院では看護部をはじめ様々な部門を見学しました。また、学外の障害児施設、訪問看護ステーション、滋賀大学教育学部附属小学校などを訪ねました。

最終日の12月15日には、研修の成果発表会と送別会を開催し、学生たちは研修で学んだ知見を報告するとともに、日本とマレーシアの看護体制を比較するなどの優れた発表を行いました。



SUMS received three nursing students from National University of Malaysia for four weeks from November 22 to December 15, 2016.

This was realized through the exchange agreement with National University of Malaysia. SUMS sent three nursing students to Malaysia for the exchange program last August in the same way.

The Malaysian students joined the training session at the School of Nursing and toured the Nursing Division and other departments in our university



hospital. They also visited a nursing home for handicapped children, home-visit nursing care station and the Elementary School Attached to Shiga University.

On the final day, the student presentation and the closing session were held. The students gave brilliant presentations of the result of the program, comparing the nursing care system in their country and in Japan.

留学生バス旅行

Excursion for overseas students and researchers 2016

12月2日（金）、3日（土）の両日、愛知・長野方面へ留学生のバス旅行を実施しました。当日は留学生の家族も含め総勢21名が参加しました。

初日は、国宝犬山城と日本モンキーセンターを見学しました。犬山城では、当時のままの現存天守のもつ本物の佇まいに圧倒され、日本モンキーセンターでは、多種多様な猿の生態を間近で観察しました。夜は、南木曽温泉で懐石料理に舌鼓を打ち、ゆっくりと温泉を楽しみました。

2日目は、午前中に中山道の妻籠宿を訪れました。

参加者全員で本陣を見学した後、宿内を自由に散策し、見事に保存された古い宿場の景観に歴史の重みを感じ取りました。その後、下伊那の道の駅信濃路下條に移動して、そば打ち体験を行いました。参加者一同、指導員の手ほどきを受けながら、文字どおり粉まみれになって信州そばづくりを体験し、日本食への理解を深めました。

今回のバス旅行は、12月とは思えないほど穏やかな天候に恵まれ、日本の歴史と文化を満喫した大変有意義な2日間となりました。



From Friday, December 2 to Saturday, December 3, an excursion for overseas students, researchers and their family was held. A total number of 21 people participated in this bus tour to Aichi and Nagano.

On the first day, they visited the Inuyama castle and Japan Monkey Center. They were overwhelmed by the dignity of the castle which is one of the oldest one in Japan. At the Monkey Center, they enjoyed to see the various monkeys from around the world.

At Nagiso Onsen, they spent the great night with Japanese cuisine and comfortable hot springs.

On the second day, they toured the Tsumago historical district on the Nakasendo Walking Trail in the morning. After visited the Honjin, the principal inn and the museum, they walked around to see the town where visitors can enjoy the well-restored old buildings. In the afternoon, they joined soba making workshop. It was fun and informative experience for them to roll out and fold the dough, and slice the noodles by themselves.

Participants were very satisfied with historical and cultural experience in two days' trip with beautiful weather, nice and warm for December.



基礎看護学講座（形態・生理）



教授 相見 良成

2016年5月1日付けで、基礎看護学講座の教授を拝命いたしました。私は、滋賀医科大学医学部の5期生で、卒業後は『ブラックジャックになる』という野望を抱き、本学第2外科で臨床研修を始めました。当初は心臓外科医になりたくて入局したのですが、その後、消化器外科のチーフであった藤村昌樹先生の影響もあり、消化器外科へ進路を切り替えました。2年間の研修の後に大学院に進学し『脳腸ホルモンの局在の検討』を研究テーマとして、本学第2解剖学講座で基礎研究を開始しました。解剖学講座では当時、助教授であった木村宏先生に師事し、組織化学法を徹底的に学びました。木村先生は1989年に分子神経生物学研究センター（現：神経難病研究センター）を立ち上げられ、私も同時にセンターへ移動しました。

このころ我々はNADPH-diaphoraseという酵素の局在を様々な臓器で明らかにしていた、私は博士論文として陽性神経が感覚神経系に見られることを報告しました（1991年）。実はこの酵素の作用は当時不明だったのですが、直後に一酸化窒素（NO）合成酵素であることが判明し、さらにNO研究が1998年のノーベル賞を取ったこともあって我々の研究に注目が集まったのは幸いでした。このような経緯もあって研究が面白くなり、大学院修了後の1992～95年にかけてのカナダ・プリティッシュコロンビア大学への留学を終えた後も、臨床へは戻らずに神経組織学の領域の研究を続けることを選択しました。

その後はしばらく分子神経センターでアセチルコリ

ン神経の形態研究を行っていたのですが、2005年4月からは本学解剖学講座・生体機能形態学部門へ移動し、2007年4月からはさらに移籍した神経形態学部門で准教授として解剖学の講義・実習を担当しました。以来今日まで教育に携わり、医学科生のみならず、本学看護学科生への解剖生理学教育の一部にも関わり、さらには学外の医療関係の学生や高大連携での小中高校生、放送大学での社会人のみなさんの教育にも関わってきました。このような看護学科とのご縁や自身の経験もあって、この度、本学看護学科に主に解剖生理学の教育を担当するため、教授として着任いたしました。

これまで私は、学生には『わかる』ことの大切さを伝えるように努めてきました。医学・看護学における基礎的な科目、特に解剖生理学は暗記科目であると学生は誤解しがちですが、内容の多くは理詰めで理解可能なものが多く、理屈が『わかる』ことによって真の知識として身につくものと考えています。さらには『わかる』ことの楽しさを体験することが新たな学習の動機付けとなり、自発的な学習の好循環を生むものと考えます。今後もこの点を基本に据えて教育をすすめていこうと思います。また私のモットーは「与えられた仕事は最高のクオリティーでやりとげる」です。学部・大学院教育、さらには学科・大学全体の運営においてもこれまで通り自分の信条を貫いて最善を尽くして行きたいと思っています。

2016年5月 滋賀医科大学 基礎看護学講座 教授

経歴

- 1985年3月 滋賀医科大学 医学部卒業
- 1985年6月 滋賀医科大学 外科学第2講座 研修医
- 1987年4月 滋賀医科大学 大学院医学研究科入学
- 1991年3月 同 修了(医学博士)
- 1991年5月 滋賀医科大学 分子神経生物学研究センター 助手
- 1992年6月 カナダ・プリティッシュコロンビア大学留学
- 1999年4月 滋賀医科大学 分子神経科学研究センター 助手
(センター改組による)
- 2001年4月 滋賀医科大学 分子神経科学研究センター 講師(学内)
- 2005年4月 滋賀医科大学 解剖学講座 講師(学内)
- 2007年4月 滋賀医科大学 解剖学講座 准教授

内科学講座（神経内科）

教授 漆谷 真



平成28年7月1日より内科学講座（神経内科）に着任いたしました漆谷と申します。この場をお借りし、ご挨拶をさせていただきます。滋賀医大には2度目の着任となりますが、2人の子供も生まれは天津で、滋賀は第二の故郷としての愛着があり、帰国後今日まで南草津に住んでおります。再び滋賀医大に戻る事ができ、大変嬉しく存じます。

私は平成3年に京都大学医学部を卒業後、京大病院と住友病院で内科・神経内科の研修を5年間積みました。特に住友病院の4年間は亀山正邦先生、宇高不可思先生のご指導を受け、急性期から慢性からあらゆる疾患の診療と、多くの剖検や病理診断に携わる機会をいただき、神経内科専門医を取得しました。平成12年に京大神経内科大学院で筋萎縮性側索硬化症（ALS）における運動ニューロン死のメカニズムに関する研究で博士号を取得、卒業後は理化学研究所脳科学総合研究センター、そして平成15年にカナダ・ラバル大学に留学しました。平成18年9月1日に滋賀医大分子神経科学研究センター（現在の神経難病研究センター）の遠山育夫教授の研究室で助教としてお仕えし、平成21年に木村宏センター長のご推薦により同センターの神経難病治療学分野の独立准教授に選考いただきました。主な研究テーマは難病ALSで、発症に関わる原因蛋白質の構造解析や特異抗体を用いた治療法の開発研究を行ってまいりました。滋賀医大在籍時、神経内科臨床は滋賀県立成人病センターや大津市民病院で7年間外来診療を行い、大津市を中心とした近隣の一般

病院やクリニックの先生方とは少なからず交流させていただきました。平成25年10月に京都大学神経内科に准教授として異動し神経難病患者の病診連携に注力いたしましたが、この度新たに開設された滋賀医大神経内科の初代教授を拝命し、身に余る任をいただきました。

さて、神経内科学が講座として独立し、滋賀医大病院神経内科の診療、教育の独自性と新たなチャレンジに向けてのより良い環境をご用意いただいたものと心しております。学生、研修医の教育面でもこれまで以上の時間をいただくことになったわけですから、神経内科の面白さと、奥深さを感じ取っていただき、滋賀医大から一人でも多くの神経内科専門医が県内の多くの病院で活躍し、県民の皆様の負託に応えられるよう、我々も診療と教育に精進して参る所存です。

滋賀医大神経内科では脳卒中を始めとする神経救急疾患から、診断困難な希少疾患、いわゆる難病と言われる神経変性疾患まであらゆる疾患に適切かつ高度な対応ができるよう、医局員一同日々研鑽に努めています。特に「神経難病」「認知症」「脳卒中」は教室の3大重点領域と位置付け、診療体制の強化を図っています。そして医局員各自の専門領域については国内外のオピニオンリーダーとなれるよう、お互い刺激を与え合い、切磋琢磨に勤しんでいます。まだまだ若輩の身ではありますが、医局員一同、皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げる次第です。

経歴

1991年 3月 京都大学医学部医学科 卒業
 1991年 6月 京都大学医学部附属病院(研修医)
 1992年 4月 財団法人住友病院(神経内科研修医・医員)
 1996年 4月 京都大学大学院医学研究科臨床神経学 博士課程入学
 2000年 3月 同上 修了 (医学博士)
 2000年 4月 理化学研究所脳科学総合研究センター
 運動系神経変性研究チーム 常勤研究員
 2003年 9月 カナダ・ラバル大学CHULリサーチセンター
 博士研究員
 2004年 7月 カナダ保健研究機構 フェロー

2006年 9月 滋賀医科大学 分子神経科学研究センター
 神経遺伝解析分野 助教
 2009年 6月 滋賀医科大学 分子神経科学研究センター
 神経難病治療学分野 准教授
 2013年 10月 京都大学大学院医学研究科臨床神経学
 (神経内科) 准教授
 2016年 7月 滋賀医科大学医学部医学科内科学講座
 (神経内科) 教授

内科学講座（腎臓内科）

准教授 荒木 信一



平成28年8月1日付けで糖尿病内分泌・腎臓内科の准教授を拝命致しました。私は、これまでの多くの時間を本学で勤務させていただいておりますので、新任教員かと言われますと少し恥ずかしいのですが、改めて自己紹介をさせていただきます。

私は、1990年滋賀医科大学の卒業（10期生）です。学生時代は、6年間、硬式テニス部で仲間たちと汗を流してきました。テニスの腕前は、お世辞にも素晴らしいものではありませんでしたが、学生時代の多くの時間を講義室ではなく、テニスコートで過ごしてきました。卒業後、旧第三内科（糖尿病・腎臓・神経内科）に入局させていただき、内科医としての一步を踏み出しました。2年間の初期研修後、京都にある洛和会音羽病院で腎臓内科医員として研鑽を積んだ後、本学大学院へ進学いたしました。大学院では、糖尿病性腎症の発症機構の解明を研究テーマに、培養細胞や糖尿病モデル動物を用いて、細胞内情報伝達機構の活性化異常とその抑制機構に関する研究を行い、学位を取得させていただきました。院生時代には、吉川隆一先生（滋賀医科大学名誉教授）、羽田勝計先生（旭川医科大学教授）、古家大祐先生（金沢医科大学教授）、戸川雅樹先生（戸川医院院長）前田士郎先生（琉球大学教授）ならびに多くの先輩方よりご指導を賜り、単に研究方法だけではなく、医師・研究者としての姿勢や考え方など多くのことを学ばせていただきました。よき指導者に恵まれ、この時代の多くの経験が、今の私の基礎になっていると思っています。

その後、ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター

遺伝・疫学部門 Krolewski 先生の研究室に留学させていただく機会に恵まれました。留学時代の私の研究テーマは、院生時代の研究内容とはまったく異なり、糖尿病性腎症の疾患感受性遺伝子の探索でありました。英語も十分に話せない上に、日本語で聞いてもよく分からない遺伝学・疫学の専門用語が飛び交う中で留学生生活を開始しました。留学当初は1年もつか不安でしたが、気付けば3年間も在籍させていただきました。海外での生活は大変なことも多いのですが、異文化と多国籍集団の中で生活・研究することはとても貴重な体験です。若い先生方には、機会があれば是非、留学をされることをお勧めいたします。

そして帰国後より現在まで、主に腎臓内科・血液浄化部で臨床・研究・教育に従事してまいりました。この間、糖尿病性腎症に関する臨床研究に取り組み、多くの糖尿病患者さんのご協力を頂きながら長期前向き糖尿病合併症経過観察研究に携わり、いくつかの臨床研究の成果を報告させていただくことができました。今後も、少しでも患者さんのお役に立てるように、そして社会に貢献できるように臨床・研究に誠意努力していきたいと思います。また、今後の大学の発展のためには、次世代を担う若い医師・研究者の育成が必須です。前川聡教授のご指導のもと、患者さんを診療する中で生じる「疑問」「なぜ」を多角的な視点で解明する姿勢を育み、リサーチマインドを持った「Scientific Physician」の育成に努めたいと思います。

今後とも、より一層のご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

経歴

1990年	3月	滋賀医科大学医学部	卒業
1990年	6月	滋賀医科大学第三内科	医員(研修医)
1992年	4月	洛和会音羽病院腎臓内科	医員
1993年	4月	滋賀医科大学大学院医学系研究科博士課程	入学
1997年	3月	同課程	修了
1997年	4月	ダイハツ保健センター滋賀診療所	所長
1997年	9月	ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター	遺伝・疫学部門 リサーチフェロー
2000年	9月	滋賀医科大学第三内科	医員
2004年	6月	滋賀医科大学第三内科	助手

2010年	12月	滋賀医科大学内科学講座(糖尿病・腎臓・神経内科)講師	(学内)
2016年	7月	滋賀医科大学附属病院血液浄化部	部長
2016年	8月	滋賀医科大学内科学講座(腎臓内科)	准教授

整形外科科学講座

准教授 川崎 拓



2016年8月1日付けで整形外科科学講座の准教授を拝命いたしました。私は滋賀医科大学12期生で、学生時代はラグビー部に所属し副キャプテンとしてバックスリーダーをしていました。卒業後滋賀医科大学整形外科に入局しました。最初の研修先がリウマチ科であったこともあり、当時の福田教授、井上准教授、牛山講師の指導のもと関節リウマチに関する研究で学位を取得いたしました。その後日仏整形外科学会交換研修医として派遣されたフランスの病院で人工関節手術を数多く経験する機会があり、それがきっかけとなり関節外科医として人工関節手術が専門となりました。

2000年代半ばからは松末教授（現病院長）のもと、初代教授であった故七川名誉教授以来伝統あるリウマチ関節外科グループのチーフとして、リウマチ性疾患の薬物治療（生物学的製剤の導入以降劇的に進化しています）から関節外科手術まで受け持つことになりました。そして人生の転機となったのが、2008年から1年間の日本リウマチ財団海外派遣医としての英国留学でした。現在の人工股関節置換術の発祥の地である英国で、数多くの手術を勉強させていただきました。また近年急速に進歩を遂げた股関節鏡手術を研修する機会もあり、スポーツ整形の分野に関わることができました。期間中に欧州の伝統や文化に触れることができたのも得難い経験となりました。留学に際し多くの本学関係者の方にお世話になり、また2回も臨床で海外留学をする機会を与えていただいたことに感謝しております。

2012年からはリハビリテーション科診療科長としてリハビリテーション部を担当することになりました（現在でも後任の先生が決まるまでの期間はまだ業務を継続しています）。その間新専門医制度のプログラム作成に取り組みました。新専門医制度ではリハビリテーション科は整形外科や内科、外科と同じ基本領域に含まれます。滋賀県には滋賀医大が中心のプログラムだけが割り当てられ、県立成人病センターなどと協力して3年間の研修プログラムを作成し受け入れ態勢を整えました。

現在の私の業務内容は、骨関節に関する訴えを聞き、診断し治療するという一連の流れを自分自身で完結できる恵まれた環境にいるともいえます。つまり診断と薬物治療（リウマチ学）、外科的治療からリハビリテーションまですべてを大学病院で担当しています。忙しいことは忙しいのですが、物事を様々な角度から見られるようになった気がします。

最近では教育関係業務にもかかわっております。手術も自分で執刀するよりも後輩の指導をする件数のほうが、はるかに多くなりました。一人でも多くの優秀な医師を育て本学の発展に少しでもお役に立てればと考えております。今後ともこれまで同様、皆様のご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

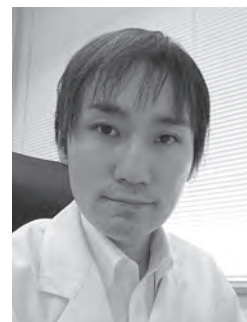
経歴

1992年 3月 滋賀医科大学医学部卒業
 1992年 6月 滋賀医科大学附属病院整形外科医員(研修医)
 1993年 7月 労働福祉事業団大阪労災病院リウマチ科医員
 1995年 4月 滋賀医科大学大学院医学研究科入学
 1999年 3月 滋賀医科大学大学院医学研究科修了
 1999年 9月 日仏整形外科学会交換研修としてフランス留学
 (アミアン大学整形外科、サンテチエンヌ大学整形外科、
 クリニックアラゴ)
 2001年 7月 京都岡本記念病院整形外科医長
 2002年 5月 滋賀医科大学整形外科医員
 2002年 10月 滋賀医科大学整形外科助手

2007年 5月 滋賀医科大学整形外科講師
 2008年 9月 日本リウマチ財団海外派遣医として英国留学
 (ライティントン病院、オックスフォード大学整形外科、
 リーズ大学整形外科、アバディーン大学整形外科)
 2012年 6月 滋賀医科大学リハビリテーション部講師、
 リハビリテーション科診療科長
 2016年 8月 滋賀医科大学整形外科科学講座 准教授

解剖学講座（神経形態学部門）

准教授 金田 勇人



この度、2016年12月1日付けで解剖学講座・神経形態学部門准教授を拝命いたしました。私は慶應義塾大学大学院医学研究科の岡野栄之教授の下で、博士課程から神経幹細胞の分化能の制御機構の研究を開始しました。岡野研は100名を越える大きな研究室で、他ではできないような実験をすることができたため、今の自分の強みとなる実験手法を確立することができました。また、各人の裁量で主体的に研究を推進するスタイルの研究室であったため、学生時代から研究プロジェクトの立案や技官とのチームワークなども経験することができました。学位取得後も助教として、引き続き発生中の神経幹細胞の時系列的な性質の変化の分子メカニズムについて研究を続けていましたが、この研究で発見した新たな幹細胞制御機構に関する研究をさらに発展させたいと考えました。そこで、2011年に横浜の理化学研究所の若手育成プログラムを利用して、「microRNAによる幹細胞老化の制御と組織恒常性の回復」をテーマにした独自の老化研究を開始しました。独立とはいえ最初は技官と自分の2人だけのユニットで、最終的にも学会発表で興味を持ってくれた学生が一名加わった3人という極小規模な研究室でした。

私自身は神経幹細胞を用いた発生・再生・幹細胞生物学が専門でしたが、幹細胞は使うものの使う細胞を含め大きく分野を変え、また古典的な老化研究とは異なる完全に独自のアプローチで老化メカニズムの解明に取り組んだため、最初は悪戦苦闘、暗中模索、試行錯誤の連続でした。また、情報共有の方法、予算獲得、コスト削減など、突然研究室の運営を考える必要が出

てきたため、その点でもとても苦労がありました。しかし、学生時代から洗練を続けてきた独自のスクリーニング法を武器に、新しい分野に移っても少しずつ未知領域の開拓とデータの蓄積を進めることができ、論文発表とともに特許出願し、製薬会社との共同研究を開始するなど、老化分野でも何とか研究を軌道に乗せることができたと思っております。一方で、自分の力不足も痛感し、また、学生を育成しながら学問を発展させていくという事の楽しさ、重要性も実感しておりました。

そんな折、勝山教授に解剖学講座の一員に加えて頂けることになりました。この段階で新たに師事できる先生と出会えた事は奇跡的な事だと感じております。私が行ってきた老化研究についても融合的に発展させていこうとご提案頂いており、早くも新しい可能性に胸を膨らませております。また、老化は多様な疾患に関連するので、医大という事を活かして専門の先生方のご協力を仰ぎ、疾患研究への発展も行っていきたいと思っております。このような機会を与えて頂いたことの感謝を胸に、滋賀医科大学の教育と研究に全力で貢献してまいりますので、皆様のご指導、ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

経歴

1998年4月 慶應義塾大学理工学部学問3（応用化学科）入学
2002年3月 慶應義塾大学理工学部応用化学科卒業
2002年4月 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻修士課程入学
2004年3月 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻修士課程修了
2004年4月 慶應義塾大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程入学
2008年3月 慶應義塾大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程単位取得退学

2005年4月 日本学術振興会 特別研究員DC1
2008年4月 慶應義塾大学医学部生理学 特別研究助教
2011年4月 理化学研究所 統合生命医科学研究センター（旧免疫・アレルギー科学総合研究センター）上級研究員
2012年4月 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科非常勤講師（兼任）
2016年12月 滋賀医科大学解剖学講座（神経形態学部門）准教授

薬理学講座

教授 西 英一郎



このたび2017年1月1日付けで薬理学講座の教授を拝命いたしました。私は、京都大学医学部を卒業後、3年間の内科研修を経て京都大学大学院（老年科）に入学しました。大学院では北徹先生、久米典昭先生にご指導いただき、動脈硬化形成に重要な酸化LDLの脂質成分がTリンパ球を活性化することを明らかにし、学位を取得しました。同研究で増殖因子HB-EGFを扱ったことがご縁となり、東山繁樹先生（現愛媛大学）のご紹介で、同因子を発見したハーバード大学Klagsbrun博士、故Folkman博士の研究室に留学し、HB-EGFの新規受容体としてメタロペプチダーゼのひとつ「ナルディライジン（NRDC）」を単離同定しました。留学後は、当時新設された先端領域融合医学研究機構に独立ポジションを得てNRDCの機能解明をテーマに研究を続け、2007年には機構解散に伴い循環器内科に異動し、北徹先生、木村剛先生のもとで臨床・学部教育とともに、グループリーダーとして研究を継続させていただきました。

NRDCは一次構造上可溶性ペプチダーゼですが、その後の研究から、細胞外・核内にも局在し、局在に依存して異なる機能を有することがわかりました。すなわち細胞外においては、膜タンパク質の細胞外ドメイン切断を増強する作用を持ち、核内においては種々の転写調節因子と協調し転写コレギュレーターとして働きます。NRDC欠損マウスが成長障害、エネルギー代謝異常（低体温、糖代謝異常など）、循環動態異常、炎症・発がん抵抗性など非常に幅広い表現型を呈した

ことから、生体でも重要な働きを持つことが明らかになりました。

今思えば、留学後に先端領域融合医学研究機構という大変恵まれた環境でNRDC研究に取り組めたことは、大変運の良かったことでした。特に欠損マウスの作製・解析は、全く未知であった同分子の生物学的機能解明に大きく貢献しました。またモノクローナル抗体、測定系を作製し、ヒト血清濃度が測れるようになったことは、様々な疾患におけるNRDCの役割にアプローチすることを可能にしました。その結果、循環器内科に移った後も、心血管系のみならずアルツハイマー病、糖尿病、さまざまながんや炎症性疾患に至るまで、幅広い領域で多くの科の先生方と共同研究を行うことができました。

本学におきましては、NRDCの複数の機能がいかに協調して生命現象の制御にあたっているかをさらに追求し、NRDCに軸足を置きながら、より普遍的な生命原理の解明に挑みたいと思っております。また、できるだけ多くの先生方と共同研究を展開させていただき、NRDCを標的とする創薬、診断バイオマーカーとしての有用性の検討などにも精力的に取り組みたいと考えております。もとより浅学非才の身ではございますが、皆様のお力添えをいただき、学部および大学院教育から大学運営に至るまで、幅広い責務の全うに全力を傾注いたす所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

経歴

1990年 3月 京都大学医学部卒業
 1990年 6月 京都大学医学部附属病院老年科研修医
 1991年 4月 島田市民病院内科、循環器科医員
 1993年 4月 京都大学大学院医学研究科博士課程入学
 1997年 3月 京都大学大学院医学研究科博士課程内科系専攻修了
 1997年 4月 京都大学医学部附属病院 老年科医員
 1998年 3月 ハーバード大学医学部小児病院 研究員
 2001年 7月 ハーバード大学医学部小児病院 インストラクター
 2003年 4月 京都大学大学院医学研究科 先端領域融合医学研究機構 助教授(特任)

2007年 4月 京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 産官学連携准教授
 2010年 4月 京都大学医学部附属病院 循環器内科学 特定准教授
 2016年 8月 京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 講師
 2017年 1月 滋賀医科大学医学部医学科 薬理学講座 教授

生命科学講座（物理学）

准教授 成瀬 延康



2016年9月12日付で生命科学講座（物理学）の准教授を拝命いたしました。私は、学生時代、早稲田大学理工学研究科において、透過電子顕微鏡（TEM）を駆使しながら物質表面の原子配列を決定する研究に携わりました。この経験が私を研究者へと導いたのです。学部生当時、顕微鏡と名の付くものは、物体を拡大して観察するものだと思っていました。ところがTEMでは、光学顕微鏡とは異なり、拡大像だけでなく焦点の位置に形成される回折パターンが取得できます。つまり、同じ物体を周波数空間でも観察できるのです。原子配列が実空間で直接観察できるというTEMの機能だけでも十分に興味深かったのですが、当時習ったばかりのフーリエ級数を、規則正しく並ぶ星のように回折パターンとして、直に観察できることに目を奪われました。そして、その回折パターンの逆フーリエ変換がTEM像であることなど、学問の奥深さと自然の美しさに触れてしまったことをきっかけに、高校の教員志望だった進路を変更し、研究者を志すことにしました。

その後も、自然界の物体を様々な評価軸で観察すると、見えないものの構造、性質、反応を明らかにできることに興味をもち、これまで多方面の研究に携わってきました。東京大学工学系研究科の理工学専攻では、研究員として、個々のナノ構造の光物性を計測するための手法開発に挑みました。このとき所属した研究室で、現在の生命科学講座（物理学）の目良教授と出会い、数々の共同研究も行いました。さらに、大阪大学産業科学研究所では、物質に光が照射された後、

物質内で超高速のフェムト秒（千兆分の一秒）オーダーで起こる電子状態や構造変化を可視化する研究にも携わりました。一方で、こうした研究に携わるうち、世界的な競争分野の研究を日本で遂行するには、専門分野に囚われない多分野横断的な研究能力や研究グループをまとめるリーダーシップをもつ人材育成も重要であることを痛感するようになりました。

そんな折、次世代の理系人材を育成するための高大接続教育プロジェクトが北海道大学で動き出すことを知りました。大阪大学での研究をそのまま続ける選択肢もありました。しかし、大学は、人という財産の価値を高めながら同時に知の追求ができる数少ない場でありながら、最先端の研究者で教育に情熱を注ぐ人材が不足しているように感じていました。そこで、自分自身がそうした人材になるべく公募に応募したところ採用されました。現役の理系研究者としての私の歩みを最大限活かすことができただけでなく、トップレベルの科学研究人材の育成を行う教育プログラムの開発とその実践にも携わることができました。滋賀医科大学でも、これまでの私の教育、研究両面の経歴を活かして、多くの先生方と新たな共同研究・教育が出来るように感じており、微力ではございますが専心努力する所存です。みなさまのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

経歴

1998年 3月 早稲田大学 理工学部卒業
2000年 3月 早稲田大学大学院 理工学研究科
資源及材料工学専攻 博士前期課程 修了
2001年 3月 早稲田大学大学院 理工学研究科
環境資源及材料理工学専攻 博士後期課程 退学
2001年 4月 早稲田大学 各務記念材料科学研究所 助手
2004年 2月 東京大学大学院 工学系研究科
科学技術振興機構 研究員
2004年 3月 早稲田大学大学院 理工学研究科 博士(工学)
2008年 3月 大阪大学 産業科学研究所 研究員
2008年 6月 大阪大学 産業科学研究所 助教

2014年 3月 北海道大学 高等教育推進機構 特任助教
2016年 9月 滋賀医科大学 医学部医学科 生命科学講座(物理学)
准教授

キャンパス ライフ Campus life

リレー・フォー・ライフ(RFL)



リレー・フォー・ライフ(RFL)とは、がん患者さんやそのご家族さんを支援し、地域全体でがんに向き合い、がん征圧をめざすチャリティーイベントです。

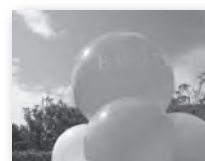
がん患者さんやご家族さん、そして支援者さんがグラウンドなどを交代で歩き、勇気と希望を分かち合います。

2015年は世界25カ国、約6,000カ所で開催され、日本では全国47カ所で開催されました。日本では公益財団法人日本対がん協会と各地の実行委員により主催されています。滋賀県では、2014年10月に近江八幡の休暇村で初開催、2015年10月に第2回目が開催されました。

この度、我々滋賀医科大学をはじめとした滋賀の大学に通う学生たちは、将来の医療従事者としてがん患者さんやそのご家族さんに寄り添い、共にがん征圧に向けて歩いていきたいという強い思いから、日本で初めての「カレッジリレー」という形でリレー・フォー・ライフを開催させていただくこととなりました。

RFLは年間を通じたチャリティー活動で、募金活動や啓発活動を通して地域全体でがん征圧を目指します。その集大成として年に1度、2日間のリレーイベントを開催します。

リレーイベントでは主に以下の企画を行います。



①夜通し続くリレーウォーク

がん患者さんやそのご家族さん、支援者さん、医療従事者、学生などでチームを作り、夜通しトラックを歩きます。

「がん患者さんは24時間がんを闘い続けている」

タスキをつなぎながら、24時間歩き続けることで痛み、苦しさ、つらさを分かち合いがんに立ち向かうための勇気、今を生きることの感動を共有しお互いを称えあうためのイベントです。



②ルミナリエセレモニー

がんで亡くなった方や、今、この瞬間もがんと闘っている方へのメッセージをつづり、キャンドルの光で照らします。

がんで亡くなった方を偲んで、尊い祈りをささげキャンドルのやさしい灯りで暗い夜を照らし、闘病中の方を応援するためのイベントです。



③ステージイベント

当日のイベントでは、歩いている人を応援し、参加者に楽しんでいただくためのステージイベントを開催します。

がんセミナーや講演会、楽器演奏やダンスパフォーマンスなど、さまざまな企画のイベントです。

④ブース

グッズ販売やバザー、飲食店などのブースを設けて、がん征圧のための募金を募ります。

がん検診やがん相談、マッサージなど、役に立つ情報を得られる場や楽しんでいただくための場を提供します。



【リレーイベント開幕!!】

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 滋賀医科大学実行委員会実行委員長
医学科第6学年 西 明博

平成28年10月8日(土)、9日(日)の両日『リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016 滋賀医科大学』を無事開催することができました。

雨の天気予報をはねのけ、暑いぐらいの日差しの中、1日目は全てのイベントを予定どおり行えました。その分の雨だったのか、深夜には土砂降りの雨に見舞われました。降り止まない雨の中、会場を駆けまわり、体は冷え、疲労はピークに達しました。ウォークを中断したほうがいいのでは、閉会を早めたほうがいいのでは、と色んなことを考えました。

そんな弱気な心に勇気をくれたのが、土砂降りの中、楽しそうにウォークを続け、フラッグをつなぎ続けている参加者の方々でした。その姿に勇気をもらい、活力が湧きました。

夜明けとともに雨はあがり、2日目も予定どおりイベントは進行し、無事閉会を迎えました。

大学、滋賀県、医療機関、たくさんの企業・団体、100名近いボランティア、本当にたくさんの方々に支えられ、無事このイベントを開催できました。ありがとうございました。

そして24時間闘い続けてくれた参加者の皆様に心より感謝いたします。

その勇気が、今がんと闘っているサバイバー・ケアギバーの皆様に届きますように。

イベントとして至らない点は多々あったかと思いますが、頂いたご指摘・アドバイスを生かして、より良いリレー・フォー・ライフを作ってまいります。来年以降も、学生達によるリレー・フォー・ライフをよろしく願いいたします!



2017年は10/8(日)～9(月祝)に開催します!みなさまのご参加お待ちしております!

海外自主研修

ハーバード大学での 自主研修を終えて

医学科第4学年
有田 和旦

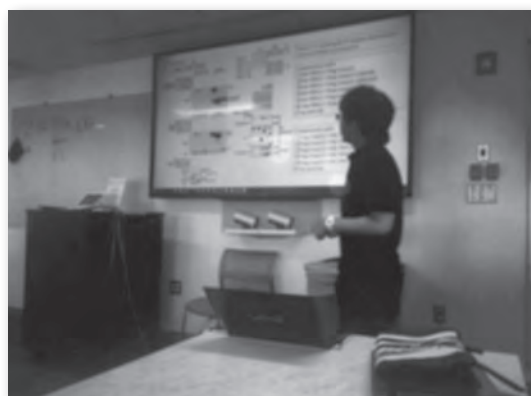


■研修先

私は、ハーバード大学医学部のYuan Junying教授の研究室に、自主研修としてお世話になりました。ハーバード大学はアメリカの東にあるボストンという都市にあります。ボストンは、ハーバード大学のみならず、マサチューセッツ工科大学（MIT）という工学系で世界的に有名な大学や、マサチューセッツ総合病院（MGH）、ボストン子供病院など数々の有名病院が集まっています。その為、ボストンでは様々な場所で毎日のようにセミナーや勉強会が開催されており、勉強するにはとても良い環境でした。休みの日には、大リーグのレッドソックス対ヤンキース戦を観戦しに行ったり、ボストン美術館やMITなど色々な場所に出かけました。

■研修内容

今回お世話になったJunying教授の研究室は、プログラムされたネクロシス「ネクロプトーシス」と



論文発表会風景

いう現象が生体内で起こる事を見出し、様々な難病との関連を証明してきました。研修では、p62というネクロプトーシスへの関連が示唆されている分子について、研究の進め方や考え方、実験手法などを学ばせて頂きました。具体的には、p62のKOマウスの表現系をデータベースにより解析し、その解析結果を踏まえてターゲット臓器を絞り込んでいく作業や、そのターゲット臓器を含めたp62KOマウスからのサンプルの採取などを学びました。また、siRNAによるp62のノックダウンにより、ネクロプトーシスの数に変化があるかを解析する実験のため、細胞培養やトランスフェクション、SDS-PAGE、ウェスタンブロット、免疫染色など様々な基礎研究の手法を学ばせて頂きました。



ハーバード大学



MGHのエーテルドーム

■医学部4年で留学する意義と得られた結果

今回の自主研修では海外の研究室で研修を行うという選択をしました。医学部4年生の夏休みの時期は、臨床科目の授業がほとんど終わっている時期であり、一応一通り医学医の勉強を学び終えています。その中で、個人的な留学の意義としては、

- (1) 将来の方向性を考える
- (2) 日本との違い（もしくは同じ部分）を把握する
- (3) 今後のモチベーションに変える

というものがありました。

(1) では、私としては、基礎研究の道に進むのか、臨床の道に進むのかという大きな点についての情報収集という意義がありました。日本の研究室だけでなく、世界の研究室を経験することで、選択する為の視野が広がったように感じます。今回の研修先は、ピックジャーナルに多く論文を出している有名な研究室でした。そのような研究室は、関連する内容でどんどん論文が出せるようで、研究結果の正のスパイラルみたいなものを感じ、将来の方向性の参考になりました。

(2) では、日本でできなくて、海外ではできるような「何か」があるのか、またその逆はあるのかという相違点を把握するという意義がありました。これに関しては、ハーバード大学での経験は極めて重要なものとなりました。研究環境に関しては、日本の研究室と大差なく、むしろ日本の設備が良いと思われる部分も多く見られました。しかし、ハーバード大学（ボストン市内）ではランチョンミーティングやセミナーなどがとても豊富で、勉強する環境としては世界最高峰だと感じました。ボストンには有名病院や大学が集中しており、有名な先生のセミナーや、様々な分野の勉強会が開催されており、最先端の研究に関する情報が

身近に多くある環境でした。そのような環境はあまり日本では無いのかもしれないと感じました。

(3) では、やはり海外での勉強は、通常ではなかなか経験できないものであり、私にとってはとても刺激になりました。日本だけでなく、海外の視点も持つ事で、今後の可能性を大きく広げるとともに、今後の勉強のモチベーションを上げる事ができました。

■最後に

勉強のこののみならず、何か目的を持って海外自主研修に臨むことで、視野が大きく広がる良い研修になると思います。補助金制度などもありますので、この機会に、負担少なく海外を楽しんでみてはいかがでしょうか！



ハーバード大学医学部正門 研修メンバー集合写真



大リーグ観戦（レッドソックス対ヤンキース）



ボストン美術館



世界を広げて違いを知る

医学科第4学年

鬼頭 雄也



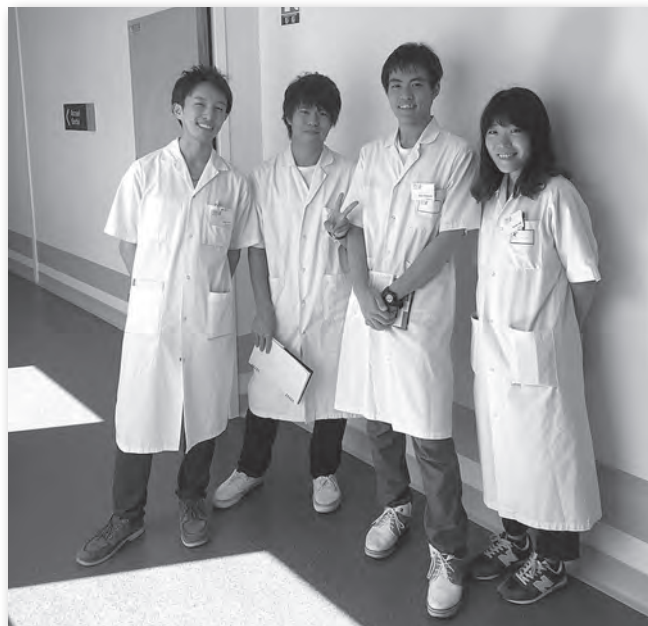
「いつか海外に住んで働いてみたい。」そんな漠然とした憧れみたいなものを、大学に入って世界を旅行していくうちに思い始めていた。夏休みを使ってバックパッカーしていたのは主にヨーロッパだったし、そこにいる人や文化を含めて大好きだったから、特にヨーロッパの国に対する思いは強かった。3年生の時に配付された自主研修先にある国はアメリカやアジアばかりで残念だったけれど、ちょうど同じようにフランスに行きたいと言ってくれる友達がいて、ダメ元で先生に交渉しに行った。難しそうな顔をされたけれど、意欲的に粘っているとなんとか初めての研修先として認めてもらえた。

もちろん僕はフランス語を流暢に話すことなんてできないし、日本の臨床現場を豊富に見てきたわけでもない、本当に無力なただの学生だけれど、それでも近い将来自分が身を置くことになるだろう場所とは全く別の環境を見ておきたかった。研修先として認められるかがなかなか決まらなかったり、ヨーロッパ各地でテロが起こったり、準備がはかどらないことも多かった。それでも向こうの病院や医師や学生など、日本とは違うものから刺激を受けてみたかった。大学の先生にフランス語の授業をやってもらったり、受け入れ先の学生とメッセージのやり取りをしたり、大変だったけれど同時にすごく楽しかったし本当にうれしかった。

受け入れ先の先生から提示された条件として「事前に見て回りたい分野を選んで伝えること、2人グループに分かれて研修を行うこと」があった。今回の研修



バナナを使って外科縫合を練習しているところ



研修メンバー4人

は僕1人じゃなくて、4人で行くものだったから、みんなで話し合って決めることにした。言語が不自由な研修先でもできるだけ多くのことを学べる分野は何か。だとしたら視覚的に見てわかる分野のほうがいいんじゃないか。というわけで、産科と小児の発達障害の2つの分野を選ぶことにした。産科は友達の、小児は僕の希望によるものだった。

事前にある程度の打ち合わせはしたものの、行ったことのない町に2週間も研修に行くのはやっぱりそれなりに緊張した。他の3人の研修メンバーとはパリでの現地合流だったのもある。電車で1時間ほど揺られて到着したアミアンは大きすぎず小さすぎず、すごく雰囲気の良い町だった。駅まで迎えに来てくれたフランスの学生もやっぱりフランスらしくフレンドリーで、研修で最初に学んだことは「いろいろな人をオープン



ドクターヘリと記念撮影

に受け入れる姿勢」だったのかもしれない。

研修先の病院では事前の通告通り2人ずつに分かれて見学をスタートした。といっても予定通りだったのはほぼそれくらいで、小児・産科の病棟を中心としたたくさんのユニットは、希望すればほぼ全部見て回れるようだった。もちろん最初の数日は前もって伝えておいたユニットで研修を行った。朝のミーティングにも参加させてもらい、検査や診察にも立ち会わせてもらった。でも日が経つにつれて「ほかに何がしたい?」「何を見たい?」等聞かれることが多くなってきた。最初僕らはダメだった。どうしても遠慮してしまう。明確に答えないと当たり前だけど向こうも助けてくれないし、それで特に何もしない時間もあった。そんな予想外に与えられた暇な時間の中で考えると、それってすごくもったいないなって思った。はるばる遠くフランスまで来て、ただ黙って過ごすだけなんて。せっかく病院のスタッフもみんな明るく受け入れてくれるのに、自分はひたすら受け身でいるなんて。すごく反省した。その分次からはちゃんと自分の希望や考えを伝え、そうすると向こうもできる限り対応してくれた。そしてこれが研修で学び得た僕にとって一番大事なもので、「自分の気持ちを正直に表すこと。遠慮という言い訳を使わないこと」だ。日本にいるときにどうしても感じてしまう閉塞感はきっと、つつい周囲に合わせてしまうこと。職場環境だって、院内のお邪魔したユニットの人たちはみんなどこかゆとりがあるようで、疑問には優しく答えてくれ、うれしい言葉をたくさんかけてくれた。2週間病院で臨床を見学して一番心に残ったことが、そうした心地よさだった。

確かにもっと技術的なものや医療システムを具体的に研修するべきだったと思う人もいるかもしれない。でも僕はこの研修で感じた日本との雰囲気や性格の違いも十分に学ぶに値するものだったと思っている。こ

の研修で学んだことは間違いなく将来の自分にとって役に立つものであるし、もしかしたらもっと大きなスケールで影響を与えるものになるかもしれない。いずれにせよ、次の学年の人たちにも海外研修にチャレンジすることを是非ともおすすめしたい。日本を飛び出してたくさんのことを体験して欲しい。



見送りに来てくれた現地の学生と



アミアンのシンボルである世界遺産の大聖堂



病院で一緒に研修したメンバー（フランスの医学生）

わたしの韓国訪問記

医学科第4学年

松田 安希



病理診断科の九嶋先生のご紹介で、8/26～9/10の2週間、韓国・サムスンメディカルセンターの病理科に行かせていただきました。楽しみであると同時に、ひとりでの渡航になるため、不安とドキドキでいっぱいでした。病理の成績は悪かったし、サムスンメディカルセンターは韓国で1、2を争う大病院だと聞いて、そんなところで自分がやっていけるのだろうかと思いがちでした。できることをやっておこうと、渡航前に韓国映画のDVDを見たり韓国文化について書かれている書籍を読んだりして、韓国についてのイメージを膨らませました。また、病理学講座（分子診断病理学部門）で国内自主研修を受けさせていただき、症例報告を通じて病理について学ばせていただきました。その後九嶋先生にお願いして、病理診断科を一日見学させていただきました。

韓国に渡航し、研修初日の朝は本当に緊張しましたが、担当教官のKim Kyoung-Mee先生をはじめ、病理科のみなさまにとってもあたたかく迎えていただき、緊張が解けていきました。サムスンメディカルセンターの病理科は驚くほど雰囲気が良く、和気あいあいとしていました。レジデント（日本でいう後期研修医）の先生は15人ほどいらっしゃり、部活動の仲間のように仲良くされていました。私もその一員のように仲良くしていただき、毎日一緒に昼ごはんを食べ、休憩時間にはコーヒーやお菓子を一緒につまみながら過ごしました。



病院食堂のごはん

研修中は、レジデントの先生につかせていただき、一緒に顕微鏡や、切り出しを見せていただいたりしました。Kim Kyoung-Mee先生には、生検や術中迅速の診断をつける際、顕微鏡を一緒に見ながら一対一で指導していただき、贅沢な時間を過ごさせていただきました。最終日には、私も、韓国語で症例報告をさせていただきました。

実習は毎日17時で終わったので、待ってましたとばかりに、毎晩美味しいものを食べまくりました。チュクミ、サムギョプサル、コムタン、キムチチゲ、タツトリタンなどなど。レジデントの先生にもご飯に連れて行っていただきました。休みの日には、サムスンメディカルセンターとアサンメディカルセンターの先生方に観光に連れて行っていただきました。最終日にはみんなでご飯を食べに行き、夜はKim先生の自宅で晩御飯をふるまっていただきました。先生方には本当によくしていただいたので別れが惜しく、レジデントの先生方とは今も連絡を取り合っています。

研修を振り返って。

語学はできないよりできたほうがいいです。私は元々、韓国語がある程度できたので、病院での会話は韓国語で行い、症例報告も韓国語でさせていただきました。語学という一番最初の段階の障壁が少ないことで、病院の方々からはかなりかわいがっていただきました。

学生の実習ですから、無知でも手取り足取り親切に教えていただけましたが、知識はあればあるほど楽しめます。病理学講座（分子診断病理学部門）での実習や本を読むことで多少の準備をして出発しましたが、病理は一朝一夕に身につくものではありません。知らないことが多すぎて、もっと勉強していけばよかったと思いました。

一生懸命やっていれば誰かが助けてくれます。私は要領も悪く、機転も利かないタイプですが、一生懸命



キムチチゲ

準備をすればそれをカバーすることができますし、また、周りの人も助けてくださいます。韓国語で症例報告をさせていただいたときも、たくさんの先生がスライド作りを手伝ってくださいました。拙い発表でしたが、一生懸命準備をして発表した結果、たくさんの先生方に「良かったよ」と褒めていただきました。

最後になりましたが、このような機会をくださった病理診断科の九嶋先生、国内自主研修でお世話になった杉原先生、仲山先生をはじめ病理学講座（分子診断病理学部門）のみなさま、担当教官のKim Kyoung-Mee先生、そしてサムスンメディカルセンター病理科のみなさま、本当にありがとうございました。思い出に残る夏を過ごすことができました。



チュクミ



タットリタン



サムギョブサル



ビンデトック

平成28年度 滋賀医科大学奨学金奨学生の決定

滋賀医科大学奨学金は、前年度の成績が優秀な第2学年以上の学部学生を各学科各学年から1名ずつ選出し、月額5万円の奨学金を1年間給付しているもので、わかあゆ夢基金および学生奨学支援助成金（企業、病院、個人からのご寄付）を財源としています。

平成28年度の奨学生は以下のとおり決定し、6月21日に中会議室において授与式を行いました。

平成28年度 滋賀医科大学奨学金奨学生

医学科	第2学年	中山景樹	看護学科	第2学年	建野ゆりの
医学科	第3学年	木内亮平	看護学科	第3学年	谷次里美
医学科	第4学年	牧野愛	看護学科	第4学年	押谷咲季
医学科	第5学年	御園生昌史			
医学科	第6学年	大岡直哉			



奨学生からのひとこと

医学科第2学年 中山 景樹

このたびは、奨学生に選んで頂きまして、ありがとうございます。私は再受験生で、はじめはいろいろと不安を感じながら過ごしていました。しかし今は、授業その他の場面で温かく受け入れて頂いて、時に自分の年齢を忘れてしまうほどで、とてもありがたいと感じています。ただ、医師となるまでの道のりはまだ長く、これからの勉強は、これまで以上に大変になると予想しています。今後も精進していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

医学科第3学年 木内 亮平

第2学年では専門課程が始まり、医師への道をさらに一歩踏み出したと実感し、特に解剖学実習では御遺体から解剖的な知識を学ぶだけでなく、人と向き合うことの意味について考える大変貴重な機会となりました。医師になるものとして大切なことを学ぶことができた、とても充実した一年間であったと感じています。

第3学年でも奨学生として、なお一層勉学に励みたいと思います。

医学科第4学年 牧野 愛

このたび奨学生に選ばれましたこと、大変光栄に思います。講義を受け持ってくださいました先生、勉強を教えあった友人、日々の生活を支えてくれた家族、そして大学としての綿密な教育カリキュラムのおかげだと思っています。専門課程の勉強は教養科目とはまた違った面白さがあり、また、勉強するにつれ少しずつ将来の姿が見えてくるように感じます。これから奨学生の名に恥じぬよう、精一杯頑張りたいと思います。

医学科第5学年 御園生 昌史

このたびは、奨学生に選出頂き、誠に有難うございます。大変光栄に思うと同時に身が引き締まる思いで、今後より一層の努力を重ねていかなくてはならないと改めて決意致しました。

日々、熱心にご指導頂く先生方、共に学び、遊び、いつも刺激を与えてくれる友人達、そしていつも支えてくれる家族に心より感謝します。

今の気持ちを忘れることなく、これからも精進したいと思います。

医学科第6学年 大岡 直哉

このたびは、奨学生に選んでいただき、ありがとうございます。まだ至らぬところの多い身ではありますが、1年間の勉強の成果をご評価いただけたことを嬉しく思います。

出身は東京都ですが、大学生活の中で滋賀という土地に愛着がわき、将来は滋賀県の医療に貢献していきたいと考えています。

今回いただいた奨学金を勉学に活かし、滋賀県の皆様にお返ししていきたいと思います。

看護学科第2学年 建野 ゆりの

この度、奨学生として推薦していただいたことを非常に光栄、そして大変嬉しく思います。同時にたくさんの知識や技術等を分かりやすく丁寧に教えて下さった学内や学外の多くの先生方、大学生活を快適に有意義に過ごすための様々な支援をして頂いた周りの方々に大変感謝しております。

昨年度は初めての大学生活で、講義の進み方、講義形態など慣れないことばかりで学習の方法も手探り状態でした。ただひたすらに、看護師になりたいという思いで入学したものの、月日が流れるにつれて講義の内容は専門性、具体性を増していきました。そして、特に技術に関しては次第により高度なものとなり、思うようにいかないことも多く、私は看護師に向いていないのではないかと悩んだこともありました、しかし、どんな時も周りの先生方や友人、家族などが支えて下さり、途中で挫折することなく今日まで励んでこられたということに本当に感謝しています。

この奨学金は多くの方々からのご寄附によって賄われていると知りました。医療を必要とする方々により良い医療、ケアを提供できるような、そして、社会の役に立てるような医療人を目指し、多くの方々がこの奨学金に込めて下さった期待に応えられるよう、今後もより一層精進していきたいと思います。

看護学科第3学年 谷次 里美

この度、奨学生として選ばれたこと、大変嬉しく思います。誠にありがとうございます。

この2年間は保健師課程の選抜に選ばれることを第一の目標として、努力してまいりました。現在、保健師課程に在籍しており、学びを広げているところであります。忙しいと感じる日々ですが、勉学に励む友人の姿が、私に素晴らしい刺激を与えてくれています。私を支えてくださる全ての方々に、大変感謝しております。

現在、実習に向けて、先生方からは丁寧なご指導をいただいております。本格的に始まる実習に向けて精進してまいります。

看護学科第4学年 押谷 咲季

この度は、奨学生としてご選出いただき、誠にありがとうございます。入学してからの3年間、多くの先生方や先輩方、友人に恵まれ、充実した学生生活を送らせていただきました。また、臨床実習におきましては、日々戸惑いながらも、患者さんやそのご家族、ご指導頂きました病院関係者の皆様のご協力もあり、座学だけでは学ぶことのできないことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。今後も精進を重ね、人の役に立つことのできる立派な社会人に成長できますよう、一層努力してまいります。

ヨット部による追悼慰霊式

嶋岡 秀典様 二十四回忌に寄せて

私たちの大先輩である嶋岡秀典さん。あれから二十四年の時が経ちました。嶋岡先輩が愛して下さったであろう本校ヨット部も今年で四十一年目を迎えることが出来ました。今日という日までの道のりに、歴代学長を初め、多くの先生方、諸先輩方の励まし、支え、何よりご指導を賜りました。そこに、嶋岡先輩の姿を目に出来ないことが残念でなりません。

あなたは、私たち医学生に大きな課題を与えて下さったのかもしれませんが。命の尊さをいかに考え、学び、守るかという、大きな課題です。

その課題に取り組むべく、日々の練習においては、安全第一を心がけ、シーズン初めには、安全講習を行い、また、OBの先生の指導のもと救命救急措置法を学ばせて頂いています。そのなかで、決してあってはなりません、万一の時にはすばやく救命に当たれるよう心がけております。

これは、あなたの残された課題に対するほんのわずかな取り組みかもしれませんが。しかし、この取り組みを継続し、さらにはより良い方法が作り出された際には、是非とも後代の方々に引き継いでいただけることを切に願っております。それが私たちからあなたの尊い命への敬意です。

あなたが愛し残してくださった大切なヨット部が、安全の中に未来へと続いていきますよう、見守っててください。

私たちは、嶋岡秀典さんのことを胸に刻み続けます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十八年九月四日



滋賀医科大学体育会ヨット部
四十期生主将 大野 純生





2017年
3月

リニューアル！

この春、図書館が提供するシステムや設備が新しくなります。
どんな風に変ったか、あなた自身の眼で確かめてみてください！

入退館ゲート



IC対応します！

ピッ

Check!



機関リポジトリ「びわ庫」

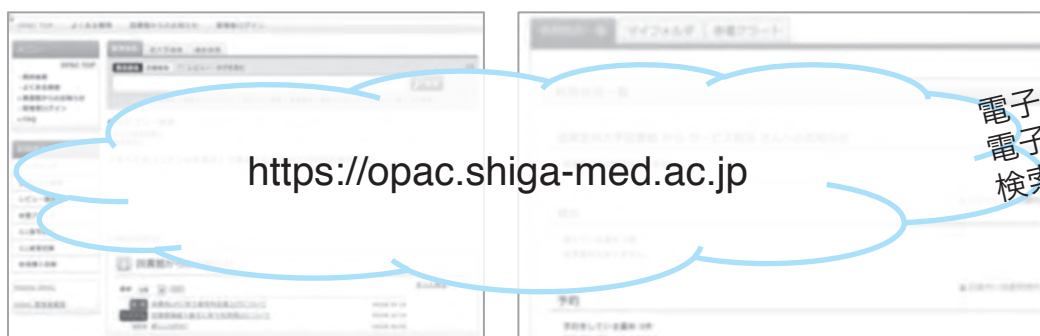


<https://shiga-med.repo.nii.ac.jp>

JAIRO Cloudに移行！
より見やすく、
使いやすくなりました！



蔵書検索システムCanZo & マイライブラリ



<https://opac.shiga-med.ac.jp>

電子ジャーナル・
電子ブックも一緒に
検索できます！



「多読でビワイチ」を開催しました!

附属図書館では2016年5月～9月の期間、
「多読でビワイチーめさせ琵琶湖1周!」と題した
キャンペーンを行いました!

◆「多読でビワイチ」ルール◆

- (1) 図書館カウンターで「ビワイチMAP」をもらう
- (2) 図書館の多読コーナー等から洋書を借りる
- (3) 読んだ本のタイトルと一言感想をMAPに記入
- (4) カウンターにMAPを提出し読んだ語数に応じてスタンプをもらう
- (5) 規定の語数に達した方には景品をプレゼント!



図書館では1F多読コーナーにて、
英語で比較的短い本のシリーズ
(多読シリーズ)を多数用意しました。



「ビワイチMAP」のスタンプカード
スタンプが全部たまると
びわ湖を一周できるようになっています!

多読とは?

近年注目されている語学学習法の一つ。

簡単なレベルの読み物から始めて段々レベルアップしながら

とにかくたくさんの文章に触れることで、自然に読解力を身に付けるものです。

参考資料：『英語多読完全ブックガイド』図書館1階（一般・専門） 830||7||Eig

『英語多読入門』図書館1階語学学習室 830||7||Eig など。

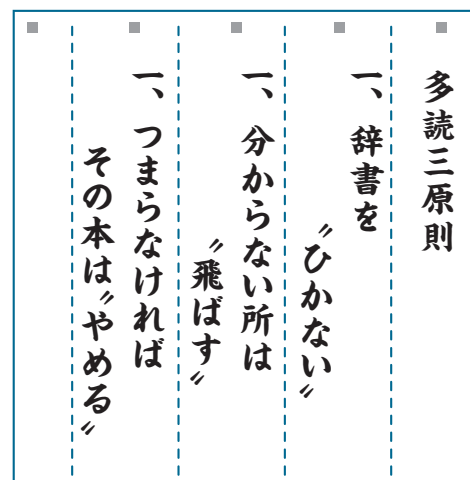
特に貸出の多かった多読本

『The adventures of Tom Sawyer』（7681語）

『Little women』（7092語）

『Alissa』（763語）

『Between two worlds』（933語）



40名を超える方々に参加いただき、6名の方が景品を獲得されました!

キャンペーンは終わってしまいましたが、
多読用の資料はずっと図書館に所蔵しています。

今からでも是非、たくさん洋書を読んで
語学力アップを目指してみてくださいね。

インフォメーション

Information

平成28年度 第1回学位授与式

10月3日（月）、本学管理棟大会議室において挙行されました。



■ 博士（医学）（課程博士） 3 名

■ 博士（医学）（論文博士） 2 名

■ 修士（看護学） 2 名

平成28年度滋賀医科大学医学部医学科第2年次後期学士編入学並びに 平成28年度秋季大学院医学系研究科博士課程・修士課程入学宣誓式

10月3日(月)、本学管理棟大会議室において挙行されました。

式 辞

学 長 塩田浩平

本日ここに、滋賀医科大学へ学士編入学される17名の皆さん、並びに大学院医学研究科へ入学される6名の皆さんを迎え、平成28年度滋賀医科大学医学科第2年次後期学士編入学および秋季大学院医学研究科入学宣誓式を挙行できますことを心からうれしく思います。

医学科学士編入学の皆さん、滋賀医科大学への御入学おめでとうございます。ご家族の皆様方にも心からお慶びを申し上げます。

皆さんは、これまでに様々な分野で勉強し、あるいは社会人としての経験を積む中で、医学を学び将来医学・医療の道に歩むことを決意して、本学の学士編入学試験に合格されました。医学を志した動機や理由は様々でしょうが、それぞれ目的をもって医学を志された皆さんの決意とこれまでの努力に敬意を表します。

滋賀医科大学では、第2年次後期に学士編入学の皆さんをお迎えしていますが、この制度の主旨は、他の分野で学んだ知識や技術、あるいは社会人としての経験を医学・医療の場で活かし、医学研究や臨床に貢献していただくことであります。医師に求められる資質はいろいろありますが、十分な医学的知識とそれに裏打ちされた的確な判断力、すぐれた医療技術などと言うまでもなく、真に信頼される医師となるためには、豊かな教養と優れた人間性、コミュニケーション能力など、人間としての大きな能力が不可欠です。そのような観点からも、皆さんのこれまでの人生経験が、将来医師になってから必ずや役に立つものと信じています。

医学部では学ぶべきことがきわめて多く、ほとんどの科目が必修科目で、皆さんには大変忙しい4年半の学生生活となります。また、医師となっても、初期臨床研修、後期研修、専門医研修、サブスペシャリティ



研修と一生が勉強の連続となります。勉強と自己鍛錬の生活がこれから一生続きます。心身の健康に十分留意して勉学に励み、常に新しい知識や技術を積極的に修得する習慣を若いうちに身につけてください。

皆さんの中には、これまでに大学や大学院で研究に従事した方もおられると思います。滋賀医科大学には、将来医学研究を行う医師、すなわち研究医を目指そうとする方を対象とした「研究医養成コース」があります。これは、研究に興味のある学生の皆さんに在学中から研究に参加していただき、条件を満たせば大学院に進学して早期に学位を取得できる制度です。これまでも、学士編入学の学生さんも比較的多くこの「研究医養成コース」に登録して研究に参加しています。わが国の将来にとって、医学研究を担う人材の育成が課題となっています。皆さんもできれば学生時代に研究に参加して、医学研究の面白さを知っていただきたいと思います。

なお、本学には、様々な運動や文化のクラブ、サークルがあります。そのひとつとして、今週末に本学キャンパスを会場として「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016滋賀医科大学」が開催されます。「リレー・フォー・ライフ」はがんと闘う患者さんと家族を支援し、がん撲滅に向けた社会への啓発を目的とする世界

的なイベントのひとつで、滋賀県で3回目の開催ですが、キャンパスリレーという形で、今回は大学の学生が主体となって企画運営されます。勉学の合間にはそうした課外活動にも参加して、豊かで充実した学生生活を送られることを祈念いたします。

次に、平成28年度秋季大学院医学研究科博士課程に入学された6名の皆さん、ご入学おめでとうございます。この中には、外国からの留学生の方が2名、博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」を履修される方が2名おられます。

近年、医学・医療の進歩は目覚ましく、新しい研究によって疾病の原因やメカニズムが次々と解明され、人工知能を利用した自動診断や再生医療などに代表される新しい治療法の開発も進んでいます。基礎医学と臨床医学の間の垣根も低くなり、優れた基礎研究の成果が画期的な医薬品の開発に結びつく例も増えていきます。皆さんは、ぜひ医学にブレイクスルーをもたらすような意欲的な研究テーマに取り組み、優れた成果を挙げてください。研究は、困難も多く競争も激しい世界ですが、それだけにやり遂げたときには大きな喜びを感じることができます。皆さんが難しい課題に果敢に挑戦し、研究によって医学・医療の進歩に貢献されることを期待しています。

大学院時代は、研究者としての素養と研究能力を修得するためのトレーニングの期間ですが、同時に、科学者としての心構えや倫理観を身につける重要な時間でもあります。最近、医療や科学研究の現場で起こっているいくつかの不祥事が医療や科学に対する社会の期待を裏切り、研究者全体の信用を傷つける結果になっていることは、非常に残念であります。皆さんは、大学院で研究に従事する間に、研究者として、また医療人としての正しい態度と高い倫理観を身につけてください。皆さんが研究を楽しみ充実した大学院生活を送られることを願っています。

この夏、ブラジルでオリンピック、パラリンピックの大会が開かれましたが、そこでの多くの選手の活躍が、世界中の人々に大きな感動をもたらしました。努力が報われてメダルを獲得した選手も、メダルに届かなくても全力で競技する選手の美しい姿も、等しく我々を感動させてくれました。一流のスポーツ選手は、もって生まれた高い能力があるのは勿論ですが、それを鍛え磨く大変な努力を日夜続けています。そうした姿に我々は感動し、彼らから多くのことを教えられます。

スポーツの世界で活躍し今年注目されたもう一人の選手に、メジャーリーグのイチロー選手がいます。イチロー選手は現在42歳ですが、今年は大リーグ通算

3000本安打、500盗塁、日米通算の安打世界記録という偉業を成し遂げ、今も活躍中です。イチローが天賦の才能に恵まれているのは勿論ですが、これだけ永く選手生活が続け、数多くの記録を打ち立ててきた陰に人一倍の努力と練習量があることは、皆が認めることです。その野球生活の中で、彼は数々の名言を残しています。その例を挙げると例えば「努力せずに何かできるようになることを天才というのなら、僕はそうじゃない。努力した結果、何かができる人のことを天才というのなら、僕はそうだと思う」「やるべきことはすべてやったし、手を抜いたことはありません。常にやれることをやろうとした自分がいたこと、それに対して準備をした自分がいたことを誇りに思っています」と言っています。そして数々の輝かしい記録を残しながらも彼は「何年野球をやっても、勉強することがあるのです」とも言っています。

イチロー選手は野球選手として他人の達成できない高みに達することを追求し続け、並外れた努力によってそれを達成しています。彼を見ていると、人間はどんな仕事をする時でも、強いモチベーションをもち目標に向かって努力を続けることがいかに大切かがわかります。皆さんも、医学部へ入って立派な医師になる、また大学院で素晴らしい研究成果を挙げて論文を書き上げる、という目標をもって今スタートします。どうかこの初心を忘れることなく、日々研鑽を続けて悔いのない大学生活、大学院生活を送ってください。

皆さんの滋賀医科大学医学部ならびに医学研究科へのご入学をお祝いし、今後のご活躍を祈念して、式辞といたします。

本日はおめでとうございます。

平成28年10月3日

平成28年度
医学科第2年次後期学士編入学入学式
秋季大学院入学式

後 期 学 士 編 入 学



■後期学士編入学 17名

平 成 2 8 年 度 秋 季 入 学 者



■医学専攻博士課程入学 6名

第42回解剖体慰霊式

10月27日（木）午前10時から本学体育館において、ご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員様及び教職員・学生合わせて約500名が参列し、厳かに第42回滋賀医科大学解剖体慰霊式を執行了いました。このたびは、系統解剖45霊、病理解剖34霊、法医解剖104霊、計183霊を新たにお祀りし、御霊（みたま）のご冥福をお祈りしました。

慰霊式は、最初に参列者全員で御霊に黙祷を捧げ、諸霊芳名拝誦、塩田学長による慰霊の辞、学生代表の慰霊の詞、高橋しゃくなげ会理事長の献辞の後、参列者全員が献花を行いました。

最後にご遺族代表及び本学を代表して宇田川教授から挨拶があり、閉式となりました。



平成28年度 研究動物慰霊式

10月25日（火）午後3時より、滋賀医科大学管理棟3階大会議室において平成28年度研究動物慰霊式を執行了いました。

雨天のため室内で行われた慰霊式には学長・理事を始め計109名が参列し、全員で黙祷を行った後、動物生命科学センター長の小笠原一誠理事、利用者会議副議長の扇田久和教授より慰霊の辞が述べられました。

その後、出席者全員による献花が行われ、過去1年間に実験に供された動物の御霊の冥福を祈りました。

JCHO

滋賀病院だより

News from JCHO

Shiga Hospital



JCHO 滋賀病院における 臨床実習を終えて



独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）滋賀病院 院長

来見 良誠

（滋賀医科大学医学部医学科 1 期生・昭和56年卒）

JCHO 滋賀病院は、平成27年 9 月29日に滋賀医科大学地域医療教育研究活動拠点となり、平成28年 4 月より、医学科 5 学年の臨床実習に協力することになりました。独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）は、全国に57病院（全病床数：14,636床）を保有していますが、このように大学と“地域医療に関する教育研究協定”が締結されているのは、当院のみであります。活動拠点の使命は、①学生および研修医の common disease（一般的な病気）に重点を置いた臨床能力の向上を図るための教育・指導、②総合診療の知識・技術・使命感を併せ持った専門医の育成、③地域医療における医師派遣システムを構築するための研究、④持続的な医師確保システムを構築するための研究、⑤地域における医療資源提供、⑥大学との相互協力による地域医療支援、が主な業務になっています。業務の一つとしての“平成28年度医学科第 5 学年（106 名）臨床実習”を終了いたしましたのでその概略をご紹介します。

学生実習は、地域医療教育研究拠点准教授 1 名・臨床教授 7 名・臨床准教授 4 名・臨床講師 8 名・客員助教 1 名・客員助手 1 名のほか18名の医師（教員申請手続き中）の計40名が担当いたしました。一日の実習内容を示します。8時20分より総合診療カンファレンスが始まります。医師約20名と学生が参加し、前日の入院症例を中心に担当医がプレゼンテーションし、指導医が解説を加える形式となっています。カンファレンス終了後、各コースに分かれて実習が始まります。学生はおのの毎日異なる診療科で実習を行い実習期間内にはほぼ全診療科をローテーションすることになります。診療科には11のコースがあり、A（外科・消化器外科・乳腺外科）、B（呼吸器科・小児科）、C（整形外科）、D（耳鼻咽喉科・眼科・口腔外科）、E（総合内科）、F（消化器内科）、G（循環器内科・救急科）、H（泌尿器科）、I（腎臓内科・代謝内分泌内科）、J（神経内科・麻酔科・老健施設）、K（健康管理センター・病院管理）と分けています。

一般病院の実習であるため大学病院よりやや高齢の方が多く、居住地に近い方が多いのが特徴となっています。当院は天津市の南部地域（膳所・石山・瀬田・南郷・大石）が主な診療圏で対象人口は約 67,000 人となっており、現時点では人口減少地域ではありませんが徐々に高齢化は進んでいます。急性期の専門診療を主体として提供しながら、さらに地域に貢献できる医療機関となるためには、予防・診断・治療・介護がシームレスに連携する仕組みを構築する必要があると考えています。このため、老健施設や健康管理センターなど、大学にない部門の実習も組み込んであることが特徴の一つとなっています。さらに病院管理に関しては、病院の幹部がこの教育に当たり、病院の機能や運営の仕方など将来医療施設の運営や政策医療に関わる場合に役立つように、医療全体を俯瞰できる



ような内容を盛り込んでいます。2週間で10コースをローテートし、最終日に実習生が成果や満足度について述べ、教育担当責任者が評価を行っていますが、概ね相互に高い評価となっていました。

1年間の実習を通じて、実習生の主な感想としては、①総合診療カンファレンスが勉強になったこと、②1対1での実習であるため、参加型であることが実感できたこと、③実際の診察や手技を体験することができたこと、④腎センターの規模に驚いたこと、⑤地域医療の重要性を知ることができたこと、などがありました。一方、JCHO滋賀病院にとって良かった点は、①総合診療カンファレンスの充実、②病院全体の活力向上、③医師の知識の整理と最新情報への更新、④医師

の指導意欲の向上、⑤新たな問題点の発見、⑥協調性の育成、などがありました。

地域医療教育研究活動拠点となって、1年を通じて常に学生がいる環境は、病院全体を活性化し、勤務する医師に教えることの面白さを呼び起こすとともに、知識の整理を促すなど想定外の効果を生み出すことができました。次年度からは、①大学病院と地域の医療施設、②自己完結型医療施設と機能補完型医療施設、③遠隔地型地域医療と都市近郊型地域医療、④専門診療と総合診療、⑤急性期医療と回復期医療、⑥先進医療と通常診療、などに着目しながら、活動拠点として充実させていきたいと思っています。



在宅看護力育成事業 「訪問看護師コース（選択制）」の紹介

平成28年12月5日（月）、平成28年度在宅看護力育成事業「訪問看護師コース（選択制）」の開講式を執り行いました。

開講式では、本学の山田理事の挨拶と、滋賀県健康医療福祉部健康医療課・福井課長補佐、滋賀県看護協会・廣原会長よりご祝辞を賜りました。その後、受講生から受講に向けての意欲的な抱負が述べられ、引き続き来賓の方々からもご挨拶を頂きました。

在宅看護力育成事業は、平成26年度より滋賀県の委託を受け、県内の地域医療に携わる人材育成事業の一環として、地域医療や在宅看護の理解と関心を深め、実践的な看護技術を習得できることを目標とした3年間のモデル事業です。看護学科と看護臨床教育センターとの協働で教育プログラムを開発、実施しています。対象は、看護学科の第3学年で、保健師・助産師課程を選択していない学生とし、募集定員10人以下としています。初年度（平成27年度）は7人が受講し、今年度（平成28年度）は3名が受講しています。

多くの看護師が、訪問看護は経験を積まなければならないという認識を持っており、看護学科在学中に将来は訪問看護をやりたいと希望を持ったとしても、卒後の進路として訪問看護ステーションなどの地域で働く看護の現場を選ぶ学生は少ないというのが現状です。

そこで、本教育プログラムでは、新卒でも自信をもって訪問看護を行えるように、県内第一線で在宅療養を支え活躍されている専門職者を講師として迎え、講義を行ってまいります。その上で演習、実習と積み上げる教育を実施しています。実習では、正規の看護学科の実習期間内で学ぶには難しい急性増悪期や終末期の実習も含んでいます。また、滋賀県看護協会主導の「新卒訪問看護師育成プログラム」を卒後教育に位置づけ、学生が訪問看護師として就職した後も、引き続き支援できるようにしています。

現在、在宅療養を望む声が増え、在宅療養の形も多種多様になってきており、訪問看護師も在宅療養者の意志に合わせられるフレキシブルな対応が求められています。

受講生には、将来様々な疾患やステージ、対象者に合わせた在宅療養に幅広く対応できるような看護師となり県内で活躍してくれることを期待しています。



開講式の集合写真



開講式での山田理事からの挨拶



座談会の様子



講義の様子



演習の様子



座談会の様子

第42回滋賀医科大学若鮎祭収支決算報告

第42回滋賀医科大学若鮎祭 実行委員会

【収入】

(単位:円)

執行部	大津市医師会	¥50,000	¥4,697,000
	甲賀湖南医師会	¥10,000	
	草津栗東医師会	¥30,000	
	東近江医師会	¥10,000	
	高島市医師会	¥10,000	
	彦根医師会	¥10,000	
	滋賀県医師会	¥50,000	
	和仁会	¥200,000	
	滋賀医科大学医学科後援会	¥300,000	
	滋賀医科大学看護科後援会	¥100,000	
	滋賀医科大学同窓会「湖医会」	¥200,000	
	滋賀医科大学医師会	¥60,000	
	学内寄付	¥985,000	
	看護部寄付	¥108,000	
	学生自治会費	¥1,200,000	
	滋賀医科大学体育会費	¥1,000,000	
	滋賀医科大学文化祭費	¥374,000	
総務局	模擬店出店料	¥350,100	¥350,100
広告局	パンフレット広告掲載料	¥2,376,221	¥2,376,221
広報局	学際バーカー売上げ	¥1,399,500	¥1,399,500
企画局	縁日売上	¥67,000	¥79,440
	その他企画	¥12,440	
ステージ局	滋賀県立成人病センター	¥150,000	¥210,000
	膳所自動車教習所	¥60,000	
合計		¥9,112,261	
前年度繰越金		¥3,942,016	
総計		¥13,054,277	

【支出】

(単位:円)

執行部	スタッフジャンパー	¥54,064	¥317,025
	文具・事務用品・コピー	¥13,831	
	郵送・通信	¥4,250	
	保険料	¥90,332	
	クリーニング費	¥6,780	
	執行部主催イベント	¥90,026	
総務局	Facebook 広報費	¥57,742	¥176,684
	文具・事務用品・コピー	¥54,687	
	衛生関連	¥57,965	
広告局	物品・設備	¥64,032	¥251,648
	文具・事務用品・コピー	¥8,470	
	郵送・通信	¥235,883	
	交通費	¥383	
広報局	口座手数料	¥6,912	¥1,906,494
	学祭・事務用品・コピー	¥1,089	
	学祭バーカー	¥874,018	
	パンフレット	¥929,263	
	学祭 PR 活動	¥83,412	
企画局	看板作製	¥18,712	¥849,424
	文具・事務用品・コピー	¥755	
	郵送費	¥2,306	
	イベント（食堂）	¥24,280	
	イベント（屋外）	¥409,956	
	イベント（講演会）	¥273,522	
	イベント（OMC・講義室）	¥61,668	
	イベント（体育館）	¥33,077	
ステージ局	お弁当	¥43,860	¥6,217,060
	文具・事務用品・コピー	¥5,885	
	ステージ設営	¥2,484,000	
	電気工事費	¥648,000	
	電気燃料費	¥103,723	
	ワイヤレスマイク	¥48,600	
	映像班	¥0	
	フィナーレ班	¥1,422,792	
	交渉班（接待費）	¥18,852	
	お弁当	¥43,395	
	吉本芸人・ケイト関連	¥1,300,000	
	ミスコン	¥23,476	
	企画	¥107,279	
	KOE	¥11,058	
合計		¥9,718,335	
次年度繰越金		¥3,335,942	
総計		¥13,054,277	

●監査報告

第42回若鮎祭の会計監査を行ったところ、適正かつ正確に運営されていたことを報告いたします。

第41回 滋賀医科大学若鮎祭
実行委員長 谷村 雄太

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

（題字は、故 脇坂行一初代学長による）

2017年3月

滋賀医科大学の理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

■ 教育理念

豊かな教養と高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人及び研究者を養成する。

■ 教育目標

- 1) 課題探求、問題解決型学習を通して、適切な判断力と考察する能力を養う。
- 2) 豊かな教養を身につけ、医療人としての高い倫理観を養う。
- 3) コミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践する協調性を培う。
- 4) 参加型臨床（地）実習を通して、基本的な臨床能力を習得する。
- 5) 国際交流に参加しうる幅広い視野と能力を身につける。

滋賀医科大学の目的・使命

滋賀医科大学は、幅広い教養と医学及び看護学のそれぞれの領域に関する高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、有能にして旺盛な探求心を有する人材を育成することを目的とし、もって医学及び看護学の進歩、発展に寄与し、併せて社会の福祉に貢献することを使命とする。

（国立大学法人滋賀医科大学学則第1条より抜粋）



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。

「中心に向かって、外からさざ波の波動－これは人々の医への期待である。外に向かって中心から一隅を照らす光の波動－これは人々の期待に返す答えである。」